

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)2020-2025

2022年度 Creating Futuresプログラム セミナー

「ダイバーシティ」 を見つめなおす

2022. 9.13 TUE
15:00~16:30

マイクロアグレッション

日常生活に埋め込まれた無自覚の差別

〈講師〉

金 友子(きむ・うちゃ) 氏

立命館大学国際関係学部准教授

「日本語うまいですね。いつ日本に来たんですか?」「留学生ですか?」「あなたがはっきりものを言うのは韓国の人だからですか?」「(大学の事務室で)コピー機が壊れたんですが……」。これらはなんてことのない日常のやりとりの一部です。本講演でテーマとするのは、差別やレイシズムといった語彙では語りにくい、非常に微妙な発言や行為です。たいていの場合、善良な人から発せられ、発言者自身が気づいていないばかりか、聞き手でさえもそれと気づかないこともあります。近年、こうした発言や行為をレイシズムの実践と捉え、「マイクロアグレッション」として問題化する議論があります。講演では、マイクロアグレッションの概念の成立の経緯、その形態と具体例、被害、どう防ぎ、どう対処できるかについてお話しします。

2022. 11.16 WED
13:00~14:30

多様性のなかの「わがまま」入門

ひとりの問題をみんなの課題にするために

〈講師〉

富永 京子 氏

立命館大学産業社会学部准教授

グローバル化により社会を構成する人々は多様化したと言えますが、多様な人々が生きる社会は、それぞれの人々が他者との間に共通性を感じづらい社会とも言えます。私たちは自分の抱えている困難を他者と同じように感じられず、解決のために声をあげることを「わがまま」だと思ってしまいます。しかし、属性や出自にもとづく不平等は依然として残っており、社会の変容による新たな「生きづらさ」も多くみられます。私たちは、どうすれば自分ひとりの問題をみんなの課題として捉えられるでしょうか? 出自も背景も異なる人々がより生きやすくなる社会を作るために、どのような声の上げ方、意見の伝え方、要求の聞き方があるかということ、社会運動論から考えます。



「ダイバーシティ」を見つめなおす

対 象 学校法人立命館教職員および学部生・院生、一般の方

主 催 立命館大学男女共同参画推進リサーチライフサポート室
学校法人立命館 ダイバーシティ & インクルージョン推進室

2022. 9.13 TUE
15:00~16:30

〈講師プロフィール〉

金 友子(きむ・うちや) 氏
立命館大学国際関係学部准教授

研究課題は離散朝鮮人の「祖国」意識。在日朝鮮人をはじめとして朝鮮半島から世界各地に離散した朝鮮民族のエスニック／ナショナルアイデンティティと彼ら・彼女らの歴史に関するものである。

論文に「在日コリアン女性の生きにくさとヘイト・スピーチアプロ第二回在日コリアン女性実態調査の結果から」、「マイクロアグレッション概念の射程」、「路上の憎悪と日常の「微細な攻撃」」など。『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション』では、「第7章 人種／民族に関するマイクロアグレッションとレイシズム」、「第8章 ジェンダーに関するマイクロアグレッションと性差別」、「第9章 性的指向に関するマイクロアグレッションと異性愛主義」を担当。

右記
WEBページから
お申し込み
ください



2022. 11.16 WED
13:00~14:30

〈講師プロフィール〉

富永 京子 氏
立命館大学産業社会学部准教授

2009年、北海道大学経済学部を卒業。2015年、東京大学大学院人文社会系研究科修士課程・博士課程修了後、日本学術振興会特別研究員(PD)を経て、現職。専門は社会運動論。社会学的視点から、人々の生活における政治的側面、社会運動・政治活動の文化的側面を捉える。著書に『社会運動のサブカルチャー化』(せりか書房)、『社会運動と若者』(ナカニシヤ出版)、『みんなの「わがまま」入門』(左右社)。毎日新聞、朝日新聞でも連載中。

右記
WEBページから
お申し込み
ください



申し込み方法 リサーチライフサポート室のウェブページにアクセスし、お申し込みください。

立命館 リサーチライフサポート室

検索